

2015年3月期 中間決算説明会

東京エレクトロン デバイス 株式会社

2014年10月29日

決算報告

代表取締役副社長

久我 宣之

業績 前期比較

(百万円)

	2014年3月期 中間	2015年3月期 中間	増減額	増減率
売上高	47,208	53,952	6,744	14.3%
売上原価	40,020	46,606	6,585	16.5%
売上総利益	7,188	7,346	158	2.2%
販管費	6,719	6,773	53	0.8%
営業利益	468	573	104	22.4%
営業外収益	51	42	▲ 9	▲ 18.2%
営業外費用	288	173	▲ 114	▲ 39.7%
経常利益	232	442	209	90.2%
特別損失	6	2	▲ 3	▲ 55.3%
中間純利益	214	287	73	34.4%
従業員数	970名	999名	—	—

セグメント別 売上高・利益

(百万円)

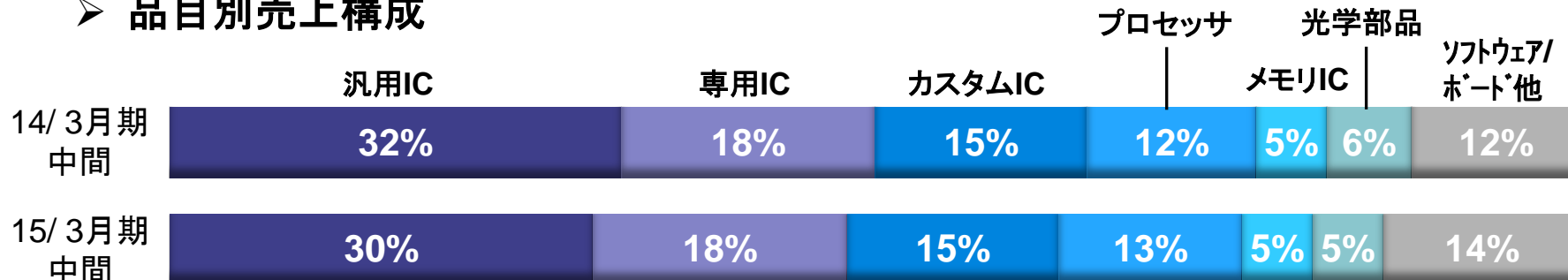
セグメント	2014年3月期中間		2015年3月期中間			
	売上高	セグメント利益	売上高	増減額 (増減率)	セグメント利益	増減額 (増減率)
半導体及び電子デバイス (EC)事業	40,294	▲ 178	46,978	6,684 (16.6%)	312	490 (-)
コンピュータシステム関連 (CN)事業	6,913	410	6,973	60 (0.9%)	129	▲ 280 (▲ 68.4%)
合計	47,208	232	53,952	6,744 (14.3%)	442	209 (90.2%)

【EC事業】 売上高 : 産業機器、コンピュータ・周辺機器、車載機器向けが好調
 利益 : 売上高の増加と為替差損の減少により増益

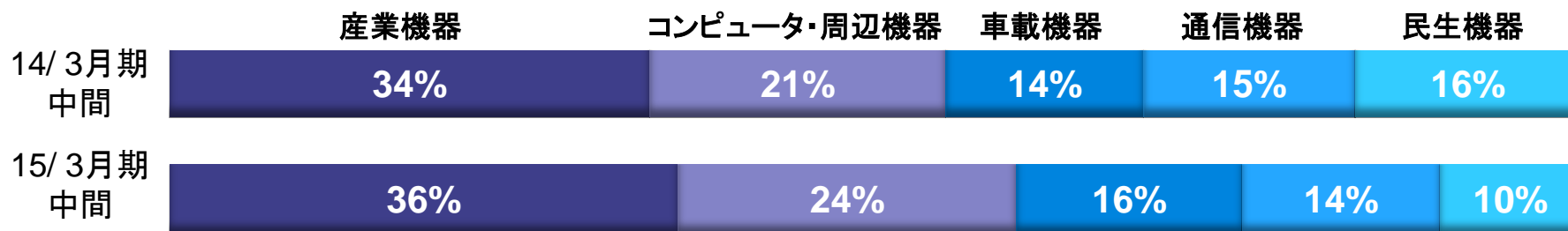
【CN事業】 売上高 : ネットワーク関連機器の販売が低調
 利益 : 前期は貸倒引当金の戻入(特殊要因)あり、減益だが計画通り

セグメント情報 (EC事業)

品目別売上構成



用途別売上構成



産業機器	: FA機器、医療機器向け等全般的に好調
コンピュータ・周辺機器	: プリンター向け好調、POS端末向けは商権拡大寄与
車載機器	: マーケット好調、商権拡大も寄与
民生機器	: マーケット低調

海外連結子会社売上高（EC事業）

	2014年3月期 中間	2015年3月期 中間	増減額	増減率
海外連結子会社 売上高(百万円)	10,596	13,019	2,423	22.9%
海外連結子会社 売上高比率	26.3%	27.7%	—	—
海外連結子会社 売上高(M\$)	107	126	19	17.9%
為替レート(円)	99	103		

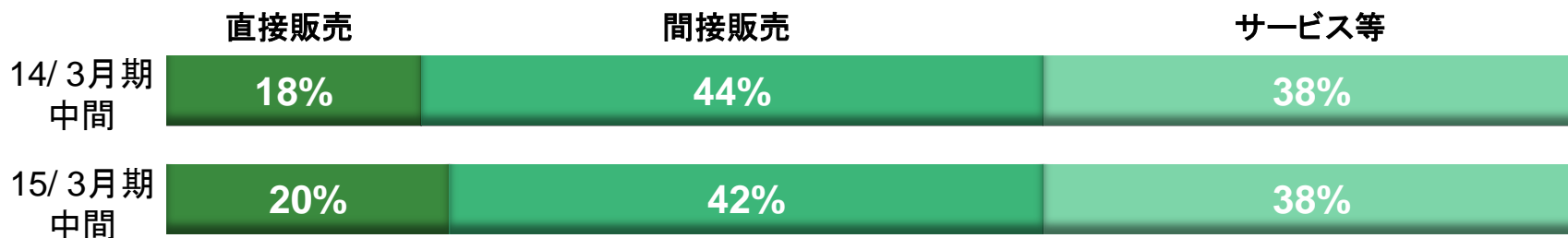
アジア地域の日系企業向け販売(移管ビジネス)が堅調

セグメント情報 (CN事業)

➤ 品目別売上構成



➤ 販売形態別売上構成

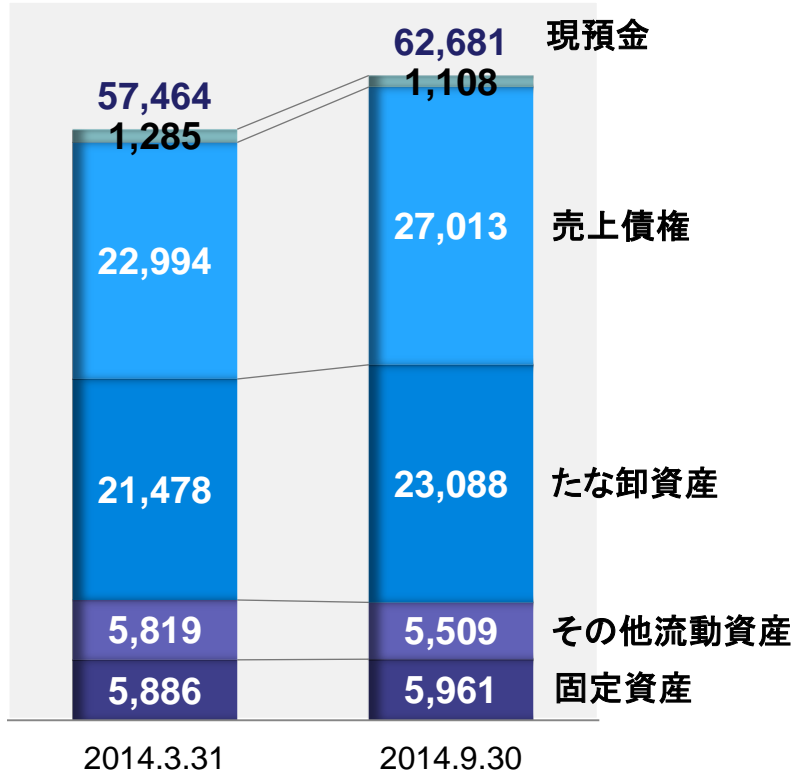


間接販売でデータベースソフトウェア好調も ネットワーク機器低調

貸借対照表

➤ 資産

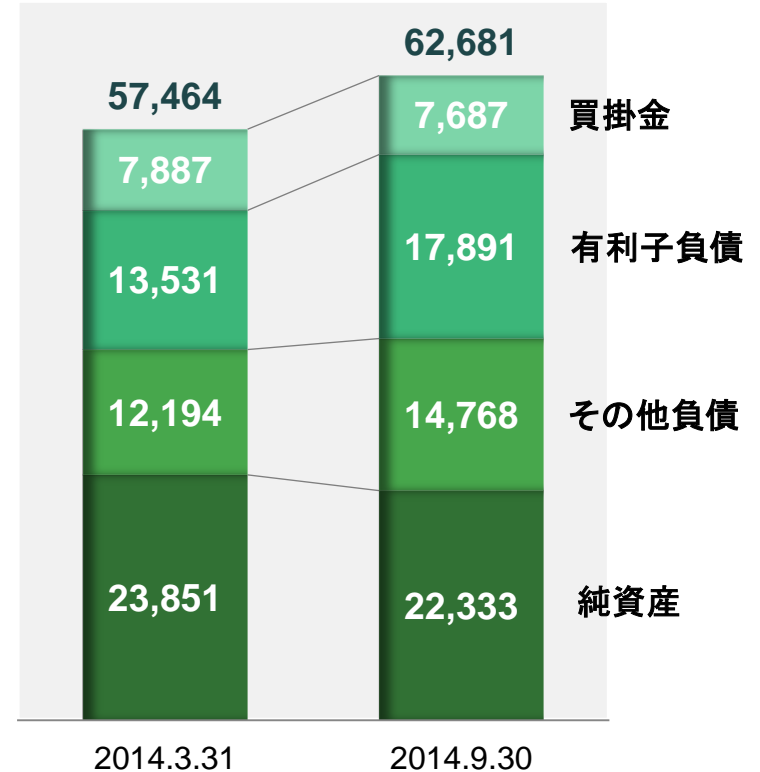
(百万円)



売上増加により、売上債権増加
受注増加により、たな卸資産増加

➤ 負債・純資産

(百万円)



運転資金を有利子負債にて調達
保守前受金増加、退職給付に係る負債増加
自己株式取得により純資産減少

自己株式について

➤ 自己株式取得

取得日:2014年4月1日

取得した株式の総数: 636,000 株

取得価額 :859,872,000 円

➤ 自己株式処分及び消却 ⇒ 保有自己株式0株へ

	自己株式処分 BIP信託	自己株式処分 ESOP信託	自己株式消却
期間	2014年11月20日～ 2019年8月31日	2014年11月20日～ 2020年1月20日	2014年11月20日
株式数	157,700株	323,800株	154,500株
消却前発行済株式 総数に対する比率	1.49%	3.05%	1.46%
総額	713,583,000円		—
資金使途	借入金の返済及び運転資金に充当		—

* 消却後の発行済株式総数 10,445,500株

2015年 3月期 下期 活動方針と業績見込み

代表取締役社長

栗木 康幸

- ✓ 2015年3月期 活動方針と施策
- ✓ 2015年3月期 業績見込み
- ✓ 配当について
- ✓ トピックス

EC事業：インレビウムを海外に展開

CN事業：保守体制の強化と新商材拡充

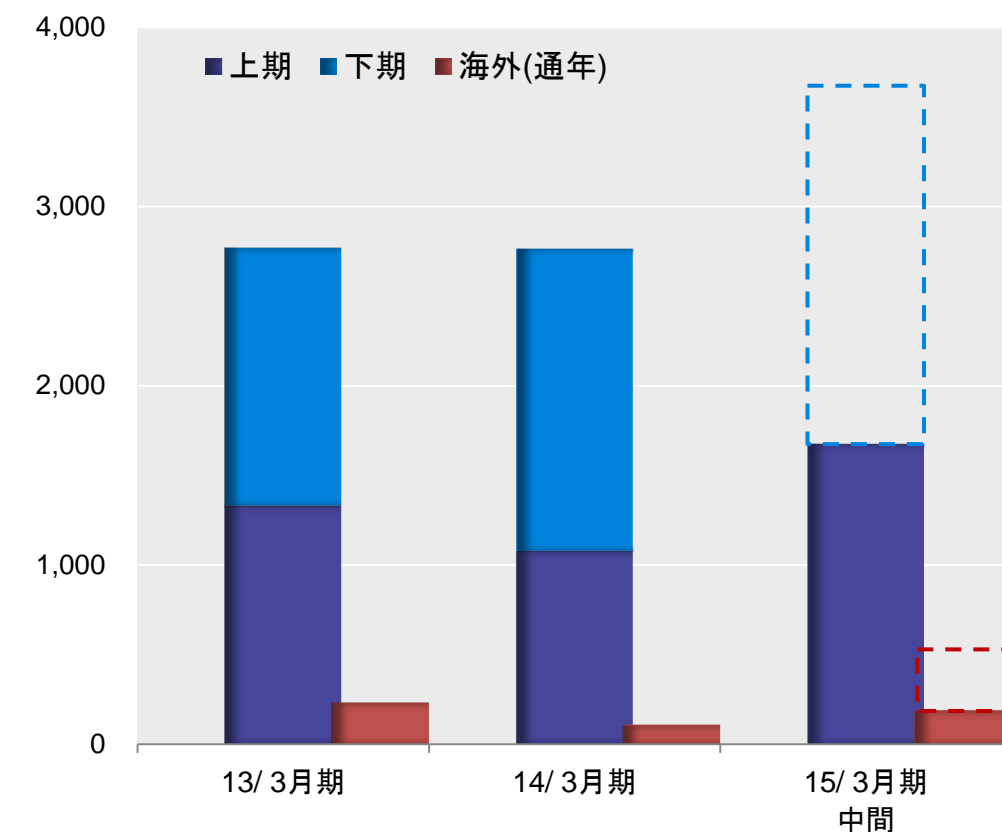
新事業の開拓

活動方針と施策（EC事業）

➤ インレビウムビジネスの海外展開を強化

インレビウムビジネス売上高

(百万円)



- インレビウムアメリカの設立
- Fidus社との業務提携



今期下期より新体制の効果が反映される見通し

活動方針と施策（EC事業）

➤ インレビウム体制強化

プライベートブランド部

自社ブランド商品に注力
SDコントローラなどの各種LSI、IPの開発と拡販

デザイン＆
マニュファクチャリング
サービス部

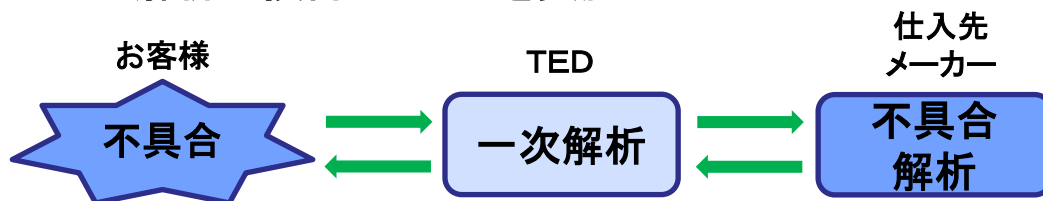
量産受託に注力
当社の技術ノウハウを駆使し、デバイス選定、量産、
品質保証までをサポート

品質管理部

自社商品に留まらない品質管理
アナライザ 19台、オシロスコープ 23台、
ジェネレータ 15台を含む約150台の測定器を保有し、
一次解析や技術サポートを実施

第一開発部

第二開発部

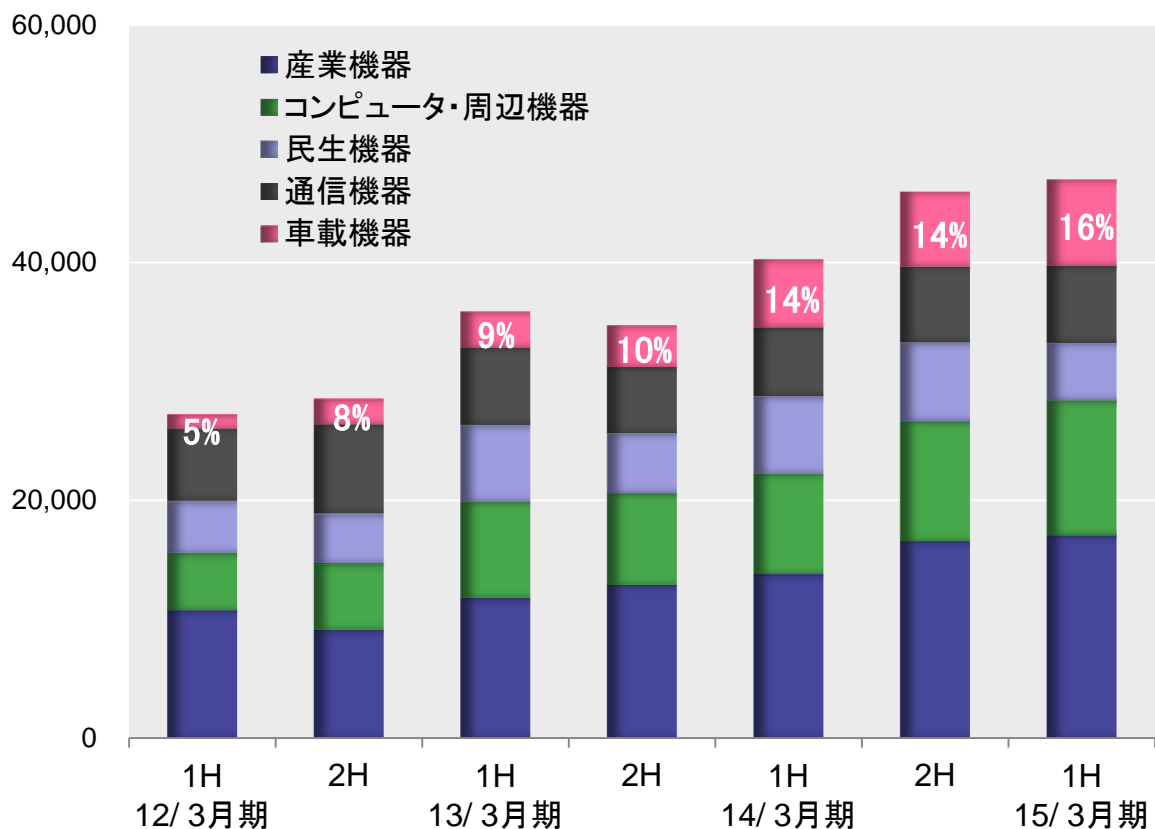


活動方針と施策（EC事業）

➤ 車載ビジネスを強化

用途別売上高推移 実績

(百万円)



安全性・信頼性で高い基準を有する車載ビジネスにおいては確かな開発サポートが必要



品質・供給などに関する社内教育やチェック体制整備を実施

活動方針と施策（CN事業）

➤ 保守ビジネスの自営化

新宿サポートセンター開設



開設： 2014年10月1日
業務： ヘルプデスク
オンサイト保守
24時間障害コール受付

- サービスレベルの向上
- 顧客との密なコミュニケーション
- ワンストップサービスの強化

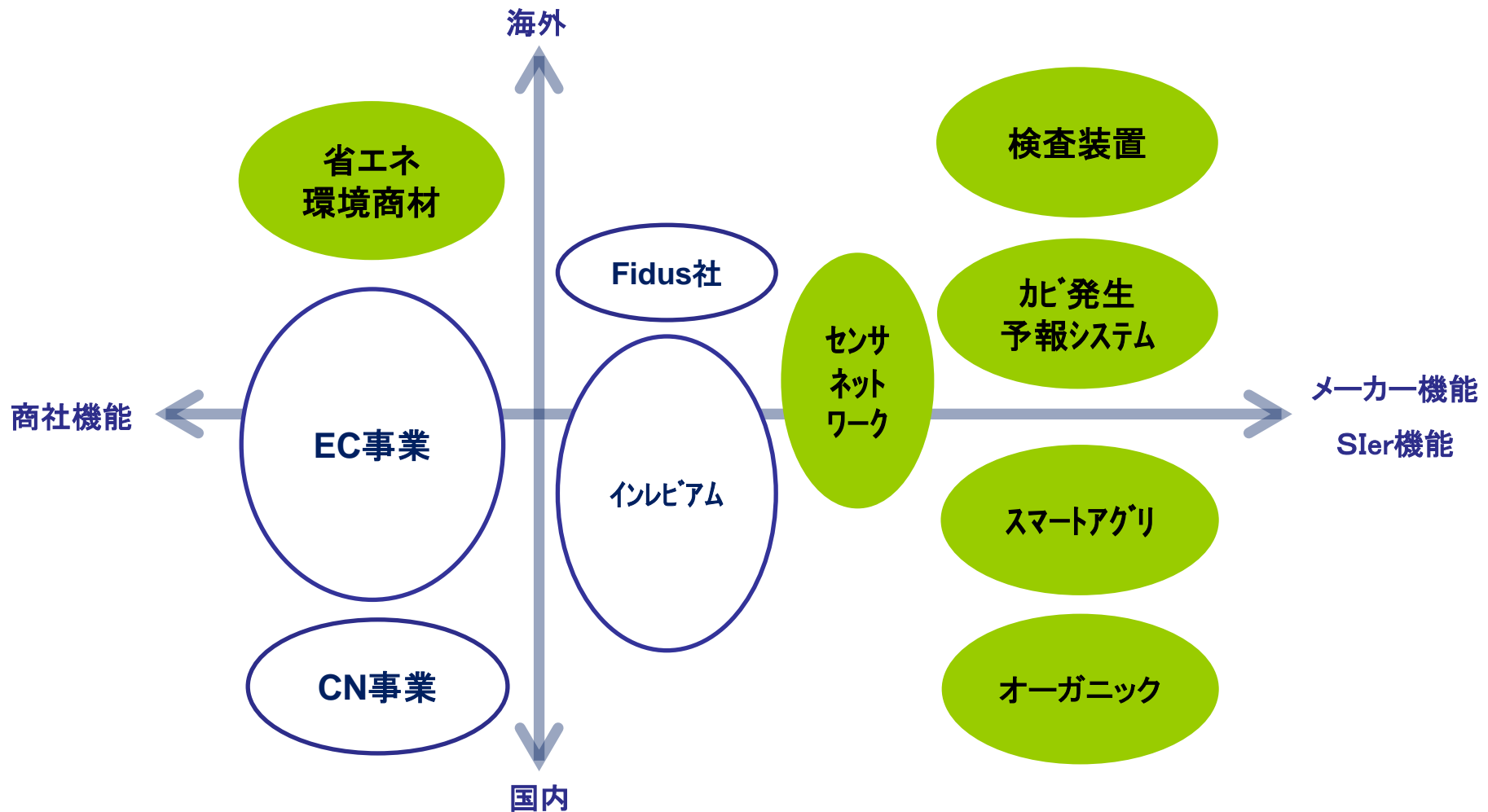


顧客満足度の向上



活動方針と施策（新規事業）

➤ 新規事業プロジェクトと既存事業の相関図



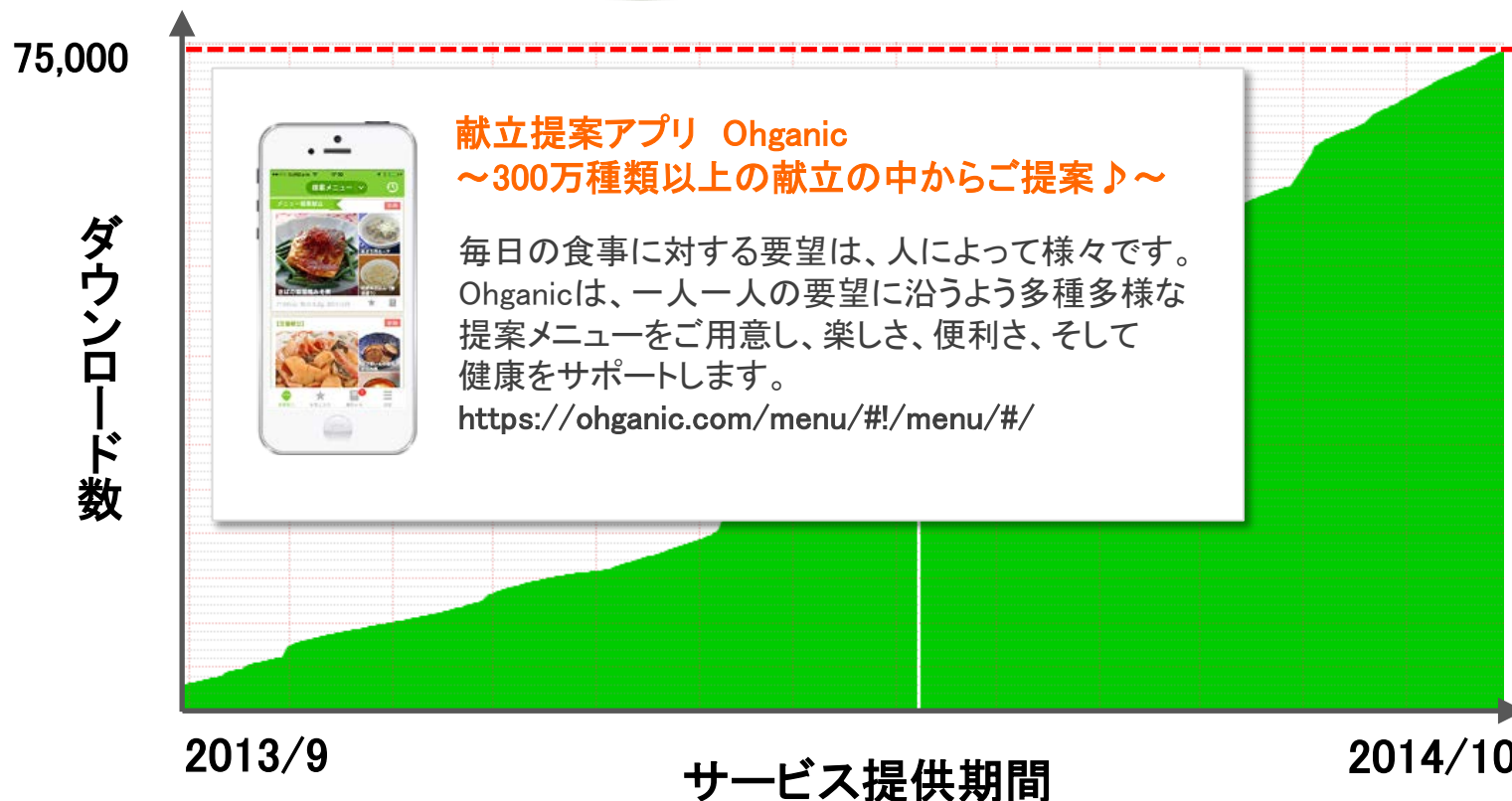
活動方針と施策（新規事業）

➤ 社内プロジェクト進捗状況

プロジェクト	概要	進捗状況
省エネ環境商材	ASEAN地域への省エネ商材の 販売	受注開始
センサネットワーク	ワイヤレスセンサネットワークの 構築サービス	システム開発 実機検証
検査装置	材料表面検査装置	実機開発 マーケティング
カビ発生予報システム	屋内環境データを収集し分析する クラウドサービス	2014年11月リリース予定
スマートアグリ	LEDによる野菜栽培システム	機器開発 栽培ノウハウの検証
オーガニック	データサービス ※詳細 次ページ	アプリ機能追加・システム改良 営業活動開始予定

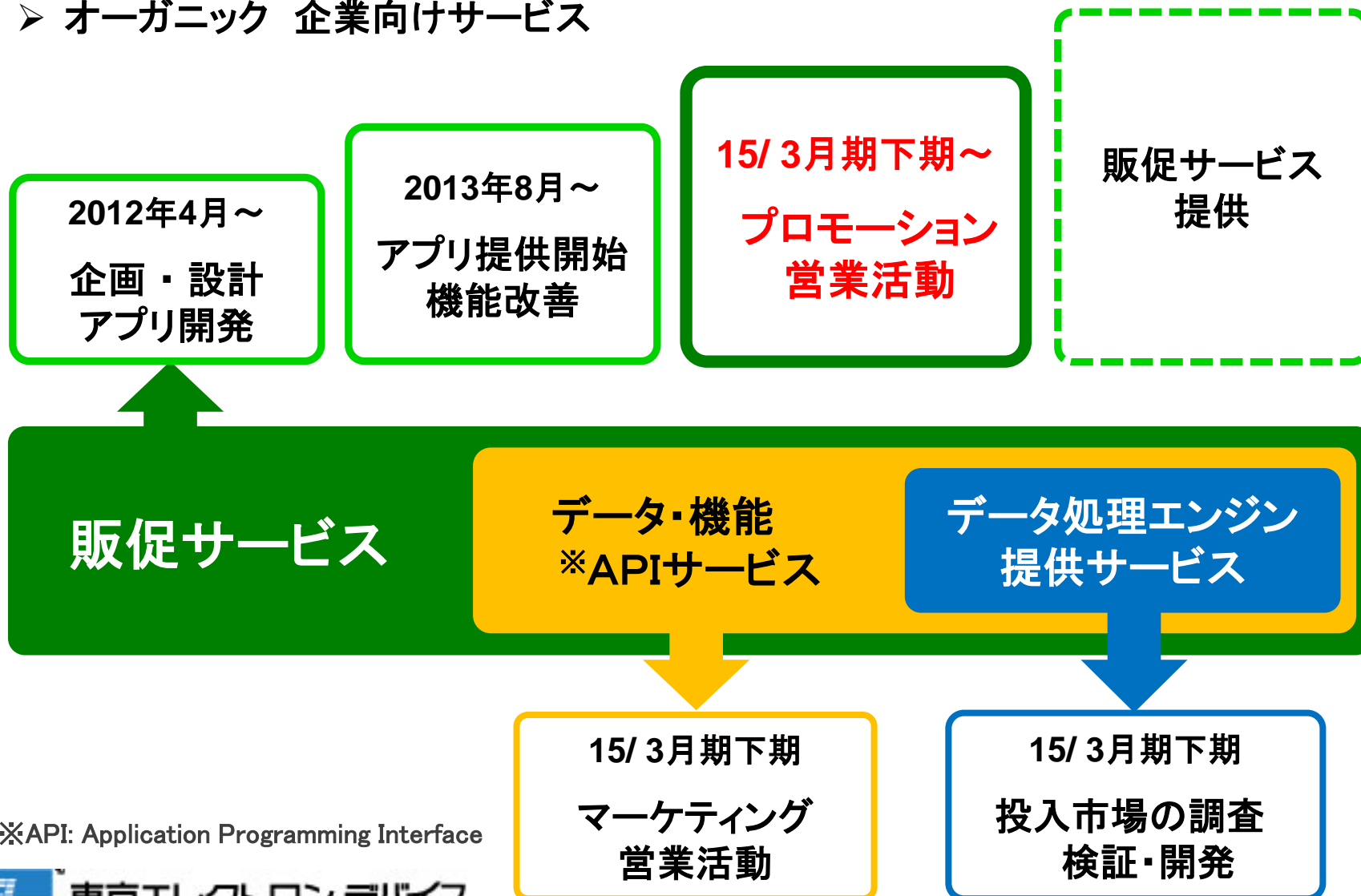
活動方針と施策（新規事業）

➤ オーガニック 利用者数推移



活動方針と施策（新規事業）

➤ オーガニック 企業向けサービス



※API: Application Programming Interface

➤ 新規取扱い製品の状況

新規取扱い開始製品

XMOS社

2014年6月取扱い開始。
優れたリアルタイム性を実現する
マルチコア・マイクロコントローラ

新規取扱い予定製品

半導体関連製品 2社

ストレージ関連製品 1社

➤ 事業環境予想

EC事業

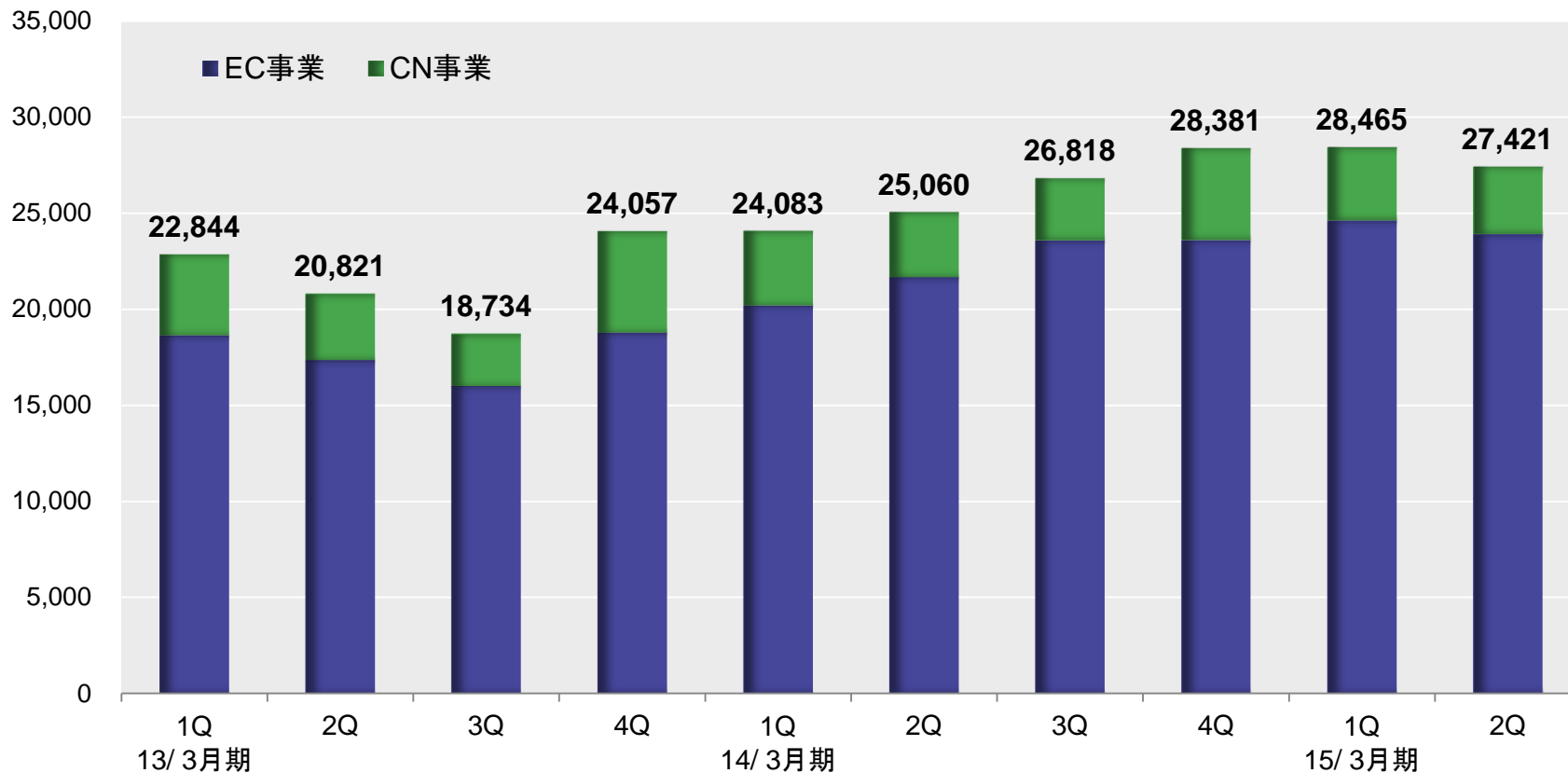
- ✓ 国内半導体市場は、底堅く推移しているものの不透明感あり
- ✓ 中国は成長鈍化、中国を除くアジア地域は総じて堅調
- ✓ 商権譲受けの遅延を想定

CN事業

- ✓ 事業者データセンターのIT投資は拡大も、企業のIT投資は低調
- ✓ 官公庁のIT投資は、下期偏重
- ✓ 保守サービスの利益率低下を想定

➤ 受注高の推移

(百万円)



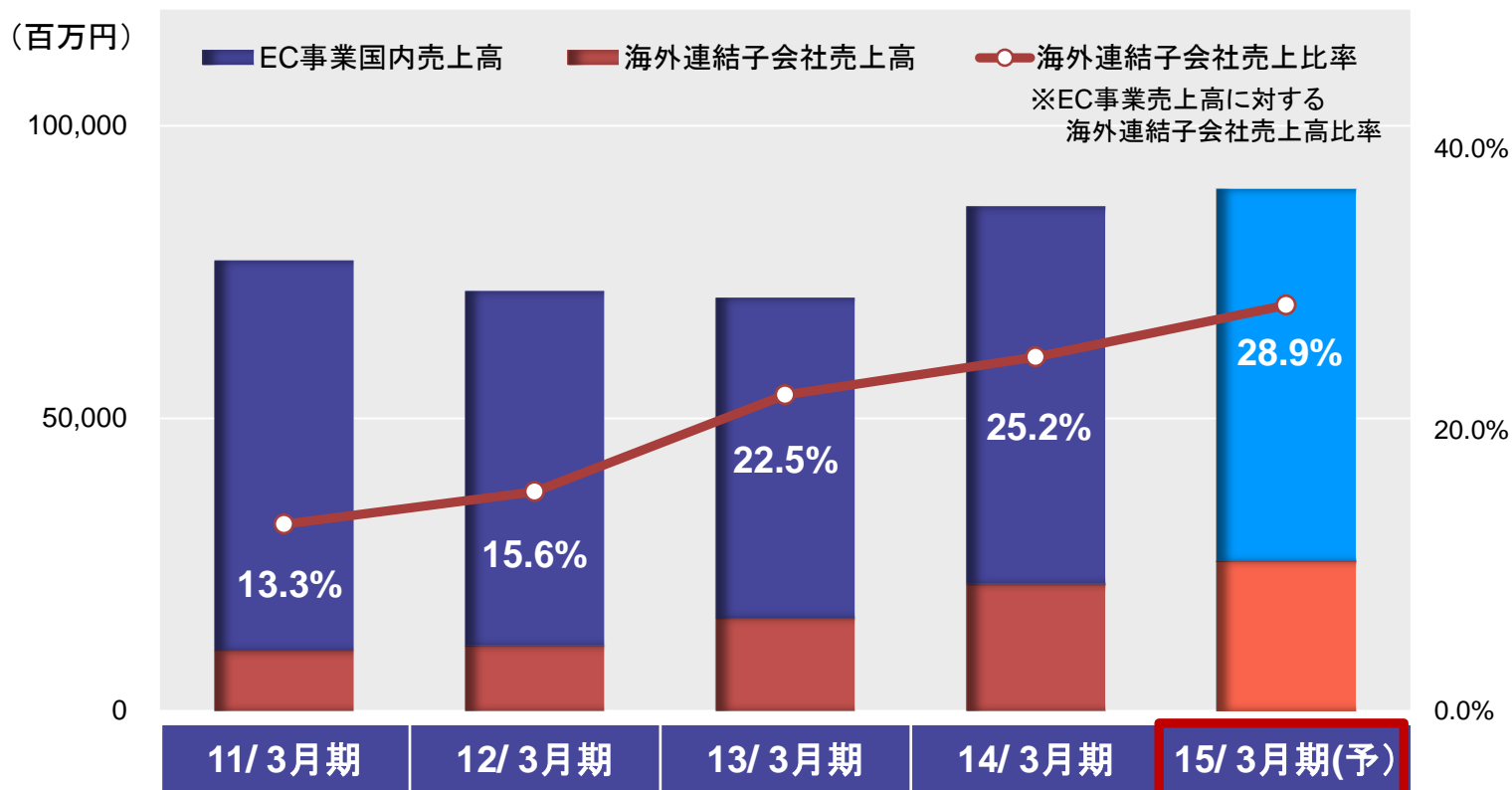
➤ 通期業績予想を修正

(百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期			
		4月25日 年初予想	10月28日 修正予想	年初予想比 増減額	年初予想比 増減率
売上高	101,801	110,000	105,000	▲ 5,000	▲ 4.5%
EC事業	86,255	93,000	89,476	▲ 3,524	▲ 3.8%
CN事業	15,545	17,000	15,524	▲ 1,476	▲ 8.7%
経常利益	1,039 (1.0%)	1,700 (1.5%)	1,240 (1.2%)	▲ 460	▲ 27.1%
当期純利益	388 (0.4%)	1,140 (1.0%)	800 (0.8%)	▲ 340	▲ 29.8%

※()内は利益率

➤ 海外連結子会社売上高



EC事業売上高	76,967	71,780	70,641	86,255	89,476
海外連結子会社売上高	10,265	11,172	15,868	21,699	25,901

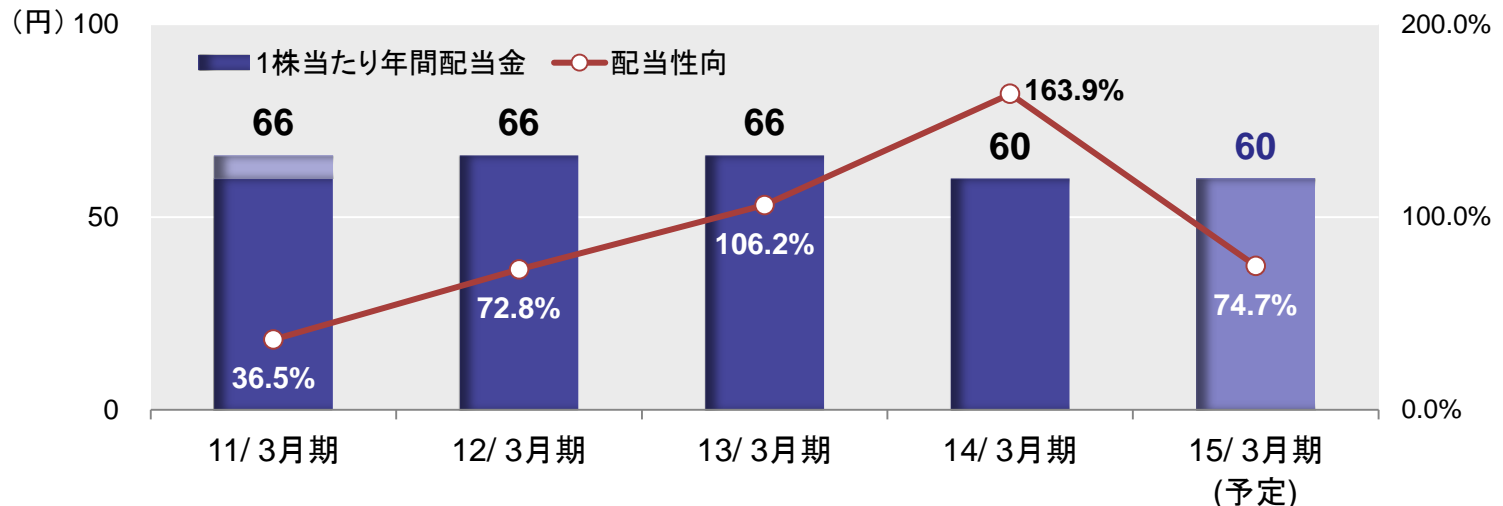
配当について

➤ 配当ポリシー

継続的かつ安定的な配当の実施を基本として、業績を反映した適正な利益還元を原則とし、当面の配当性向の水準については連結当期純利益の35%程度を目安

➤ 1株当たり年間配当金

	2014年3月期	2015年3月期
中間	3,000円(分割調整後:30円) ※2013年10月1日を効力発生日として1株を100株に分割	30円
期末	30円	(予定) 30円



※ 上記1株当たり年間配当金は過去分まで遡及し、株式分割調整後の金額を記載しております。

- 大手お客様より
ベストパートナー賞を受賞



- NEDOのプロジェクトに参画

NEDOの音カメラを活用した橋梁点検
ロボットの研究開発プロジェクトに参画。

設計開発センターの

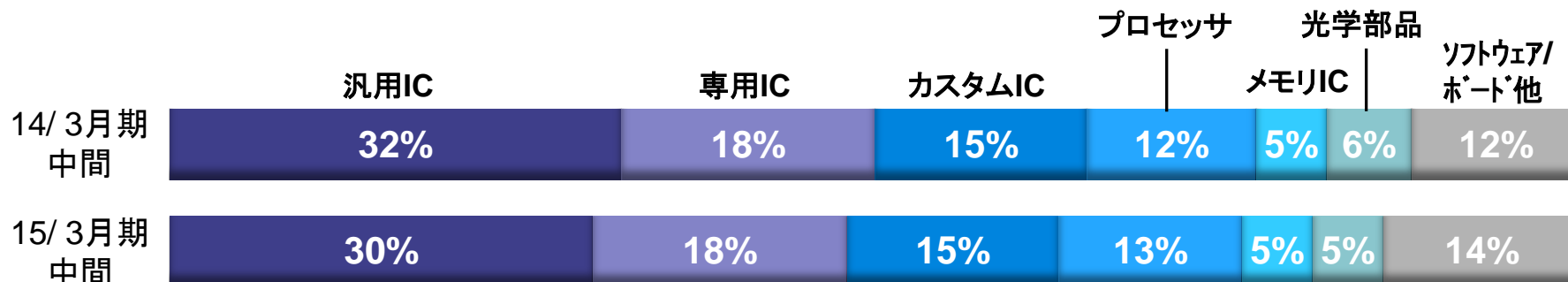
- 音声アナログ処理技術
- A/D変換技術
- 独自技術

(音声処理・画像処理・ネットワーク制御 など)
をいかし、音カメラの小型化を担当。

※ NEDO : 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

補足資料

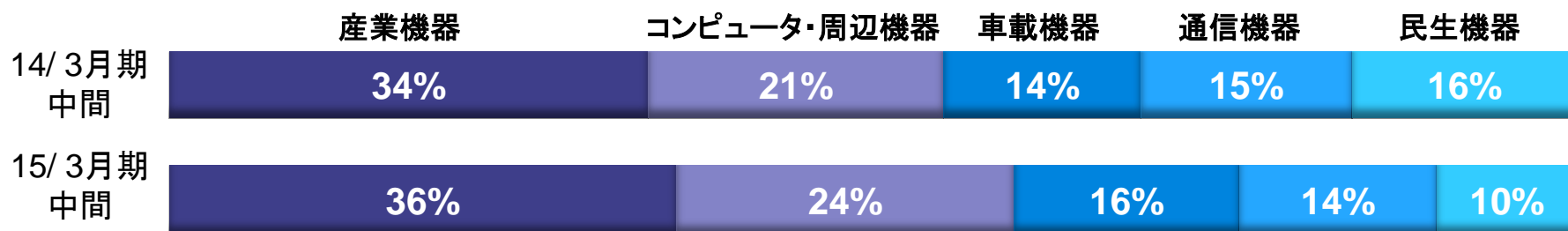
EC事業 品目別売上構成



品目	増減率	主な要因	主な仕入先
汎用IC	+ 10.5%	家庭用ゲーム減少も カーナビゲーション、産業機器増加	TI / リニアテクノロジー / フリースケール
専用IC	+ 15.5%	プリンター、液晶プロジェクタ等PC周辺機器増加	TI / ピクセルワークス / インターシル / サイプレス
カスタムIC	+ 12.0%	医療機器、カーナビゲーション増加	ザイリンクス / 富士通 / インビアム
プロセッサ	+ 27.8%	車載、POS端末増加	フリースケール / TI / インテル
メモリIC	+ 29.8%	新商材の立ち上がりにより増加	サイプレス / IDT / スパンション
光学部品	▲11.0%	スマートフォン減少	アバゴ・テクノロジー
ソフトウェア/ボード他	+ 38.9%	POS端末増加、ボード製品も増加	マイクロソフト / コーセル / インビアム

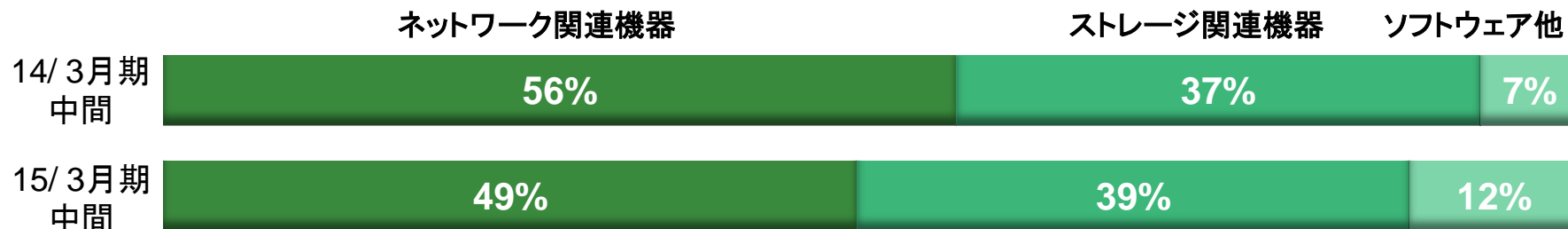
※仕入先名は略称で記載しております。

EC事業 用途別売上構成



用途	増減率	主なアプリケーション	当社の傾向
産業機器	+ 23.6%	医療機器 放送機器 監視カメラ FA機器 工業用ロボット 工作機械 半導体製造装置 インバーター 計測器	全般的に好調
コンピュータ・ 周辺機器	+ 34.5%	複合プリンター 液晶プロジェクタ OA機器 タブレット PC及び付属機器 POS	プリンタ好調 商権拡大によりPOS端末増加
車載機器	+ 26.3%	カーナビゲーション カーオーディオ ボディ系	マーケット堅調に加え 商権拡大により大幅増加
通信機器	+ 12.1%	携帯電話 スマートフォン ルーター 伝送装置 基地局	基地局増加 スマートフォン低調
民生機器	▲ 26.1%	デジタルカメラ デジタルビデオカメラ TV DVD AV機器 家庭用ゲーム リモコン	マーケット低調に加え 家庭用ゲーム、リモコン減少

CN事業 品目別売上構成



品目	増減率	主な要因	主な仕入先
ネットワーク関連機器	▲12.3%	企業向け間接販売減少 保守サービスも減少	エクストリームネットワークス社 F5ネットワークス社 インフォブックス社
ストレージ関連機器	+5.8%	データセンター向け機器販売好調 新商材も寄与	ブロード社 EMC社(アイシロン データドメイン)
ソフトウェア他	+84.7%	ビッグデータ関連製品(データベースソフトウェア)好調	Pivotal社 オラクル社

※仕入先名は アルファベット順 略称で記載しております。

	品目	主な製品	機能
EC事業	汎用IC	アナログIC ロジックIC	色々な用途に共通に使用されるIC
	専用IC	画像処理用IC 通信用・ネットワーク用IC	特定用途用に作られた専用IC
	カスタムIC	ASIC PLD	お客様の仕様に応じて作られる固有IC
	プロセッサ	CPU DSP	電子機器の頭脳 演算機能・制御機能
	メモリIC	SRAM FRAM MRAM フラッシュメモリ	記憶用IC 書込み読出しが可能なものや 読出しのみのものがある
	光学部品	発光ダイオード フォトカプラ	電気を光に変換して使用する電子部品
	ソフトウェア/ボード 他	ソフトウェア ボード 電源 コネクタ	企業向け産業機器に組み込まれるソフトウェア プリント配線基板上にIC 電源 コネクタなどの部品を 実装した製品(ボード)
CN事業	ネットワーク関連機器	ネットワーク負荷分散装置、 セキュリティ関連機器	インターネットの接続負荷の分散、 ネットワーク上のセキュリティを強化
	ストレージ関連機器	SANスイッチ フラッシュストレージ	大容量データに高速に接続、記憶する
	ソフトウェア他	データウェアハウス用データ ベースソフトウェア 組み込みデータベース	データベース管理、クラウド環境の管理

このプレゼンテーションで述べられている将来の当社事業に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。

当社の参画するエレクトロニクス業界及びIT業界は変化のスピードが大変速く、また、世界経済、半導体市況など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、今後当社の業績見通しが本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。
また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。